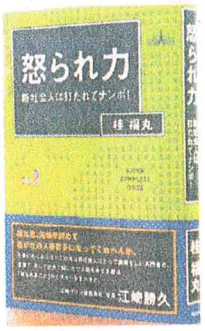
産経新聞6月23日（月）　社会面

失敗ばかりの新社会人諸君 打たれてナンボや！

「怒られ力」で一人前になれ

上司や先輩に怒られ落ち込む若者を励ますため、京都大出身の落語家、桂福丸さん(36)が、自らの経験を基に出版した「怒られ力～新社会人は打たれてナンボ！」（明治書院、1296円）＝写真＝が反響を呼んでいる。怒られたことをエネルギーに変えようという内容。企業の新人研修でも取り上げられるほどだ。



自身の経験で培った「怒られ力」を本にまとめた落語家の桂福丸さん＝奈良市（大塚聡彦撮影）

京大卒の若手落語家が指南書 研修活用の企業も

福丸さんは、各地の寄席に出演するほか、クラシック音楽と落語を組み合わせた「寄席クラシックス」を演じるなど幅広く活動する若手の注目株。昨秋、ある新聞の取材に自身の経験を基に考えた「怒られ力」について話したところ、出版社から執筆を依頼された。

有名私立進学校の灘中学校・灘高校（神戸市東灘区）を経て京都大学法学部という高学歴の持ち主だが、大学卒業後に舞台活動を志しアルバイト生活に入ると失敗の連続だった。上司だけでなく、同僚からも「メモばかり取りすぎ」などと怒られ、客からは「しょうもないことができないやつは、もっとしょうもない」とまで言われる日々。

平成19年、念願かなって4代目桂福団治さんに28歳で弟子入り。師匠宅での家事から楽屋の掃除、出囃子（でばやし）まで任されたが、ここでも「茶ばっかりいれるな」と怒られ、先輩からは「帰ったほうがまし」と浴びせられた。

空気を読もう、誰よりも早く職場に行こう…。課題を整理して対処法を蓄積。修業に生かした。そのかいあって、落語家として高座に上がれるようになる一方で「怒られ力」は完成の域に。

今回出版した本は、主人公が10段階の試練を乗り越えていくという展開で「怒りの向こうにある意味を的確に捉えよ」などのメッセージを盛り込んだ。福丸さんは「打たれ弱い自分でも落語を続けられている。同じ悩みをもつ人のヒントになればうれしい」と話す。

共通の知人を通じて福丸さんの本を知った江崎グリコの江崎勝久社長は「わが社の人事部長になってくれと言いたくなるほど、新入社員にとってすばらしい入門書」と絶賛。新入社員約30人に本を配布して感想文を書かせるなど研修に活用した。